

総理府全国青年の船

中近東、東南アジア訪問記(二)

林田和幸

椰子の樹と宝石の国スリランカ

スリランカは南インドにある島国である。インド半島と隔て、マナール湾を抱えこむようにして、610℃Nに広がるわが国の九州と四国を合わせた面積よりやや大きい国である。この国はインド洋航路の要衝にあることから16世紀以降ヨーロッパ人のアジア進出の基地となった。一五〇五年ポルトガル人が来島し、ついでオランダ人がこの島を占領したが、この国の歴史を大きくかえ、しかもこんにちの特色をもつようになったのは、一七九六年からのイギリス領有である。イギリスは、この島を熱帯農産物のプランテーションの地として開発した。この影響が現在のスリランカに及んでいて、一九四八年、英連邦の自治領として独立したが、一九七二年、国名をセイロンからスリランカに変更した。スリランカ(シンハリ語でセイロン島の意味)と改めた経済は、三大輸出を、紅茶、天然ゴム、ココナツの農産物に依存し、目ぼしい資源も有せず、主要食料を輸入に依存する現状からみて、今後とも厳しいものと考えられる。航海日誌より



○昨夜のホテルが印象に残る日本の源氏ホテルよりはるかに大きく、その数も多かった。ホテルのボーイと一緒に取りに行こうと誘うと危険だからダメだと言う、理由はコブラや近く湖がある関係でワニが道路にも出てくるそう。ボーイと仲良くなり彼がパイナップルやマンゴウ、ドリアなどカゴいっぱい持って来た。(果物は目を向けると必ずあると言つても過言でない)仲間達と舌鼓しながら夜が更けるまで雑談を交わした。

一般国民の住宅大雨の心配は全くない

ハードスケジュールの中で日程は消化されていく。今日もバスはスゴイ勢いで進む。この国には車検制度がない。どの車を見てもまともな車はない。最高級のバスと聞いては、入口のドアは無く、運転手は素足で先頭を行く。バスは日本製のサニーでこれもバックミラーが着いていない。道路の両側には椰子の樹木が連なり、民家は土を主にしてあり屋根は椰子の葉、窓は切っただけ、戸は無く中も土間だけでフンは椰子の葉を乾燥させたものだけで電気配線は見られないが季節も温暖で、着る物の心配はいらない。水田では田植えがあり、少しはなれたところでは稲刈作業の風景が同時に見られる。食べ物は山産品あり農村の子供達は学校には行かず、観光客を見つけると、よく開き手を差し出す。知っている英語はマナーだけである。キャンデーには釈迦の歯が祭られている。人々は釈迦を崇拝する。人々は釈迦を崇拝する。人々は釈迦を崇拝する。

完結編

ほこら始末記(二)

堀二雄

内野部落・長老伊藤保任さんは、明治二十二年一月の生れである。若い時から薬しらずの健康体であった。趣味の一本釣りは友人素足の腕前で、三ツ島沖で釣にかかった大魚に伝馬船ごと天草近くまで引張られ更に転じて福浦まで引張られ、そこでやっと引上げてみたらエイの怪物だった。お伽話のような少年時代の思出は有名である。



大正七年から昭和五年迄日空勤務、精励精進で常に給料の取りがしであったとは、性格の一端が、うかがえるようである。会社をやめた伊藤さんは、

老人優等生

千代さんの霊を慰めるべく荒れ果てた墓を修理清掃し更に納骨堂に祭られる等手厚い奉仕を続けていられた。『積善の家には余慶あり』か、子供さん達の仕事も順調で、三人の孫さんにも恵まれ悠々自適の毎日である。

私設老人優等生

伊藤さんは生来多趣味多芸で盆栽庭木や配石にもたくみで、石ノミを握れば友人も舌を巻くほどで、毎年の老人作品展にも常に上位入選である。九十歳を過ぎても人によってはお話の毎日である。

運動に当り、天性の

進められることが多い。更に豊富な知識と体験は部落の生き字引として親しまれている。昨年体調を壊し入院していられたが全く回復以前にも増した元気でいる。

老友会連合会長 永松登弥



カメラスポーツ

上下門ゲートボール会場にて

郡婦連幹部

研修会開かれる

去る五月十四日、芦北郡地域婦人連絡協議会主催のもとに、郡内婦人会幹部、会員合わせて二百五十名の会員が小学校体育館を幹事研修会の場とした。婦人の地位の向上と幸せを築くために『時代』と『地域』に合った婦人会活動を盛んにするために、どのように実践、努力すればよいかについて学習を致した。講師は、国際キリスト大学助教授、齊藤美津子先生をお招き致した。先生は同時通訳(英語)の草分け的な存在であり、同時通訳専門家の養成では第一人者でもある。さて、講演は『外国から見た』

歳時記(夏)

梅よりはやみひびく泉かな 緑わく夏山陰の泉かな (芭蕉) (夢太)



古中尾・水天さんの清流

青年一堂に集う

第十回支部対抗バレーボール大会

去る五月二十五・六・七日の三日間にわたり、津奈木小体育館において、支部対抗バレーボール大会が行われた。各支部とも、練習の成果を充分に出し切り、チームワークを最大の武器としてそれぞれに、各試合とも白熱の大会が展開された。若き情熱と力が、ぶつかり合った。試合の結果は次のとおりである。

- 優勝 平国支部
- 優待 平国支部
- 準優勝 F支部・大泊支部



▲白球を追って青年の瞳は輝く

一才強の若い仲間達である。現在、団長の吉野強君が入院中の為、副団長の林田満君を中心に、全団員一丸となって、団員確保、団活動の促進に頑張っている。先に行なわれた、支部対抗バレーボール大会においては、昨年度優勝の千代支部に、若さと、チームワークとで打ち勝っている。また、この支部では、毎年十一月の部落祭において、演芸会を行なう。支部最大の事業として、早くから練習に励み、伝統あるこの行事を残そうとする。彼らが実に頼もしい。今後のより一層の発展を期待したい。大泊支部・団員数、二十三名、名連合最大の大世帯である。団長 野崎 憲章



講師齊藤美津子先生の講演風景

着順
ちいん来ん、逢いたか見たか孫の顔。
ちいん来ん、加勢のいる時アよりつかん。
道傍地蔵さん、億病者の守り神。
ちいん来ん、親の墓までうて合はん。
ちいん来ん、便りの中とがよかしるし。
道傍地蔵さん、車の増えて目の廻る。
ちいん来ん、来る面も無ア。
緑助
ちいん来ん、娘は嫁に行つた。

肥後狂句

堀 双岳選

ちいん来ん、飲むしこ飲うでうせたり
道傍地蔵さん、是処にもガゴが出おつた
次 題 双岳
◎よかつた ◎油断して
四句以内、八月十五日まで
新入歓迎